

1 人文地理学とは何か

前期に「自然地理学」について学び、後期に「人文地理学」をもってきたが、地理学は自然と人（人文）の関係性を扱う学問の分野なので、両者は本来一緒に扱われなければならない。

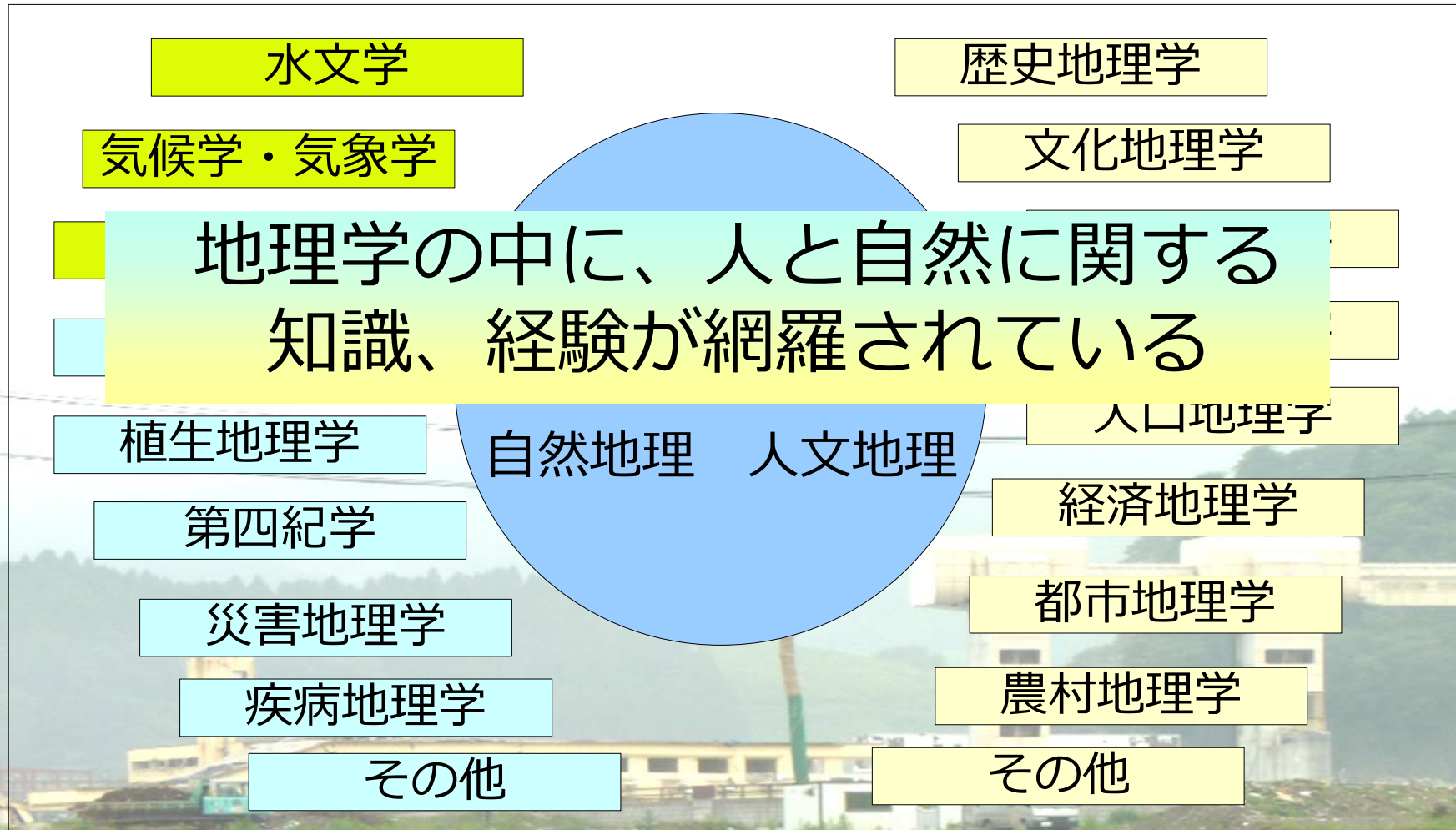
さらに、場所によって異なる特徴を理解することをめざすのが地理学（決して普遍性をトップレベルの目的においているわけではない私見）。

地理学の視点を修得するために、後期は人文地理学の教科書をベースにして、自然、人文の両側面から地理学的事象について話したいと思う。

近藤昭彦

地理学は環境学ともいってよい！

2022年度から高校「地理総合」が必修化

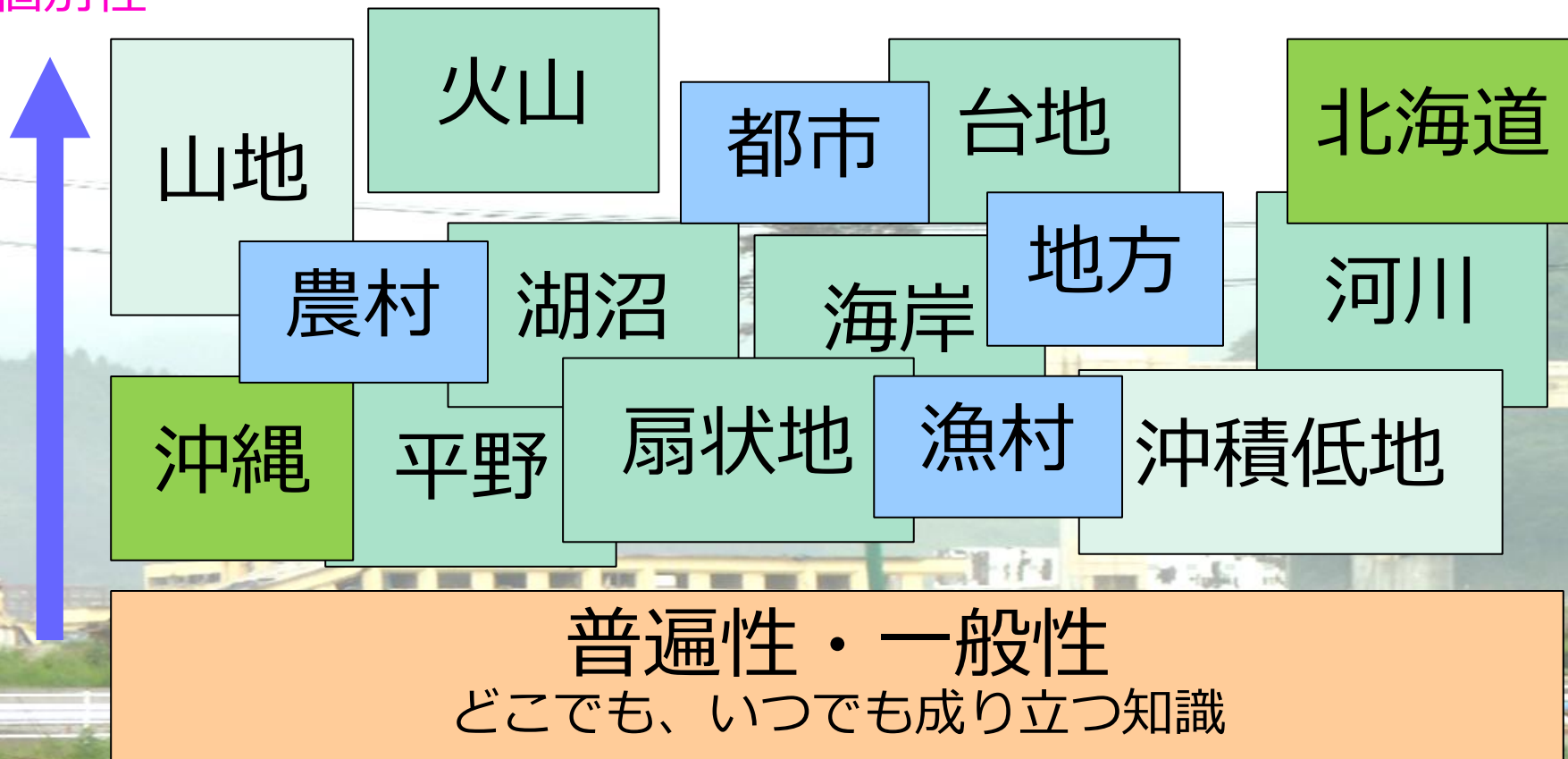


地理学は人と自然の関係学 人と自然の分断が災害を招く

地理学は場所、時間で異なる事象を扱う

- 「地域」が基本的枠組み
- たとえば、災害は地域の特徴に応じた現れ方をする
- 住んでいる土地の特徴を理解しよう

地域性
個別性



1. 地理も積もれば山となる

人文地理学の出発点

- ・なぜ、地域によって暮らしが変わるのか？
- ・なぜ、豊かな地域と貧しい地域があるのか？
- ・そもそも地域とは何か？ ⇒調べてみよう



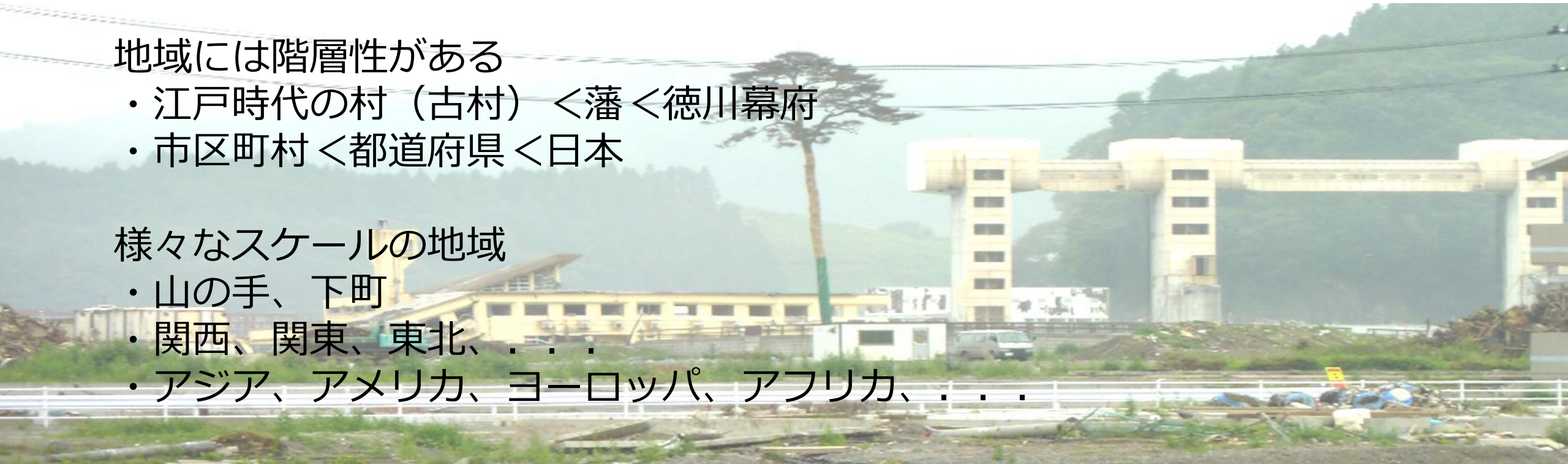
人間社会と場所や地域との関係を探求する学問分野

地域には階層性がある

- ・江戸時代の村（古村）＜藩＜徳川幕府
- ・市区町村＜都道府県＜日本

様々なスケールの地域

- ・山の手、下町
- ・関西、関東、東北、．．．
- ・アジア、アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、．．．



この写真にはたくさんの人と自然の営みとその関係性が記録されている



2 系統地理学と地誌学

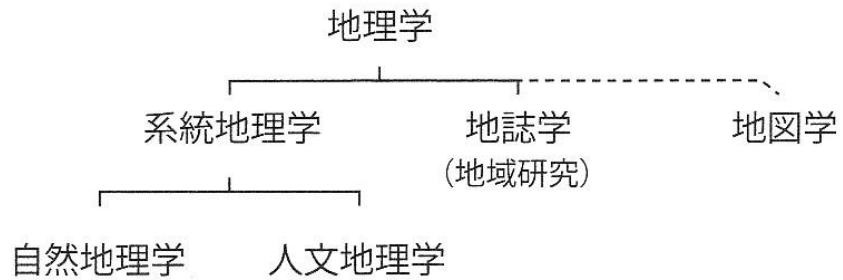


図 1-1 地理学の分野

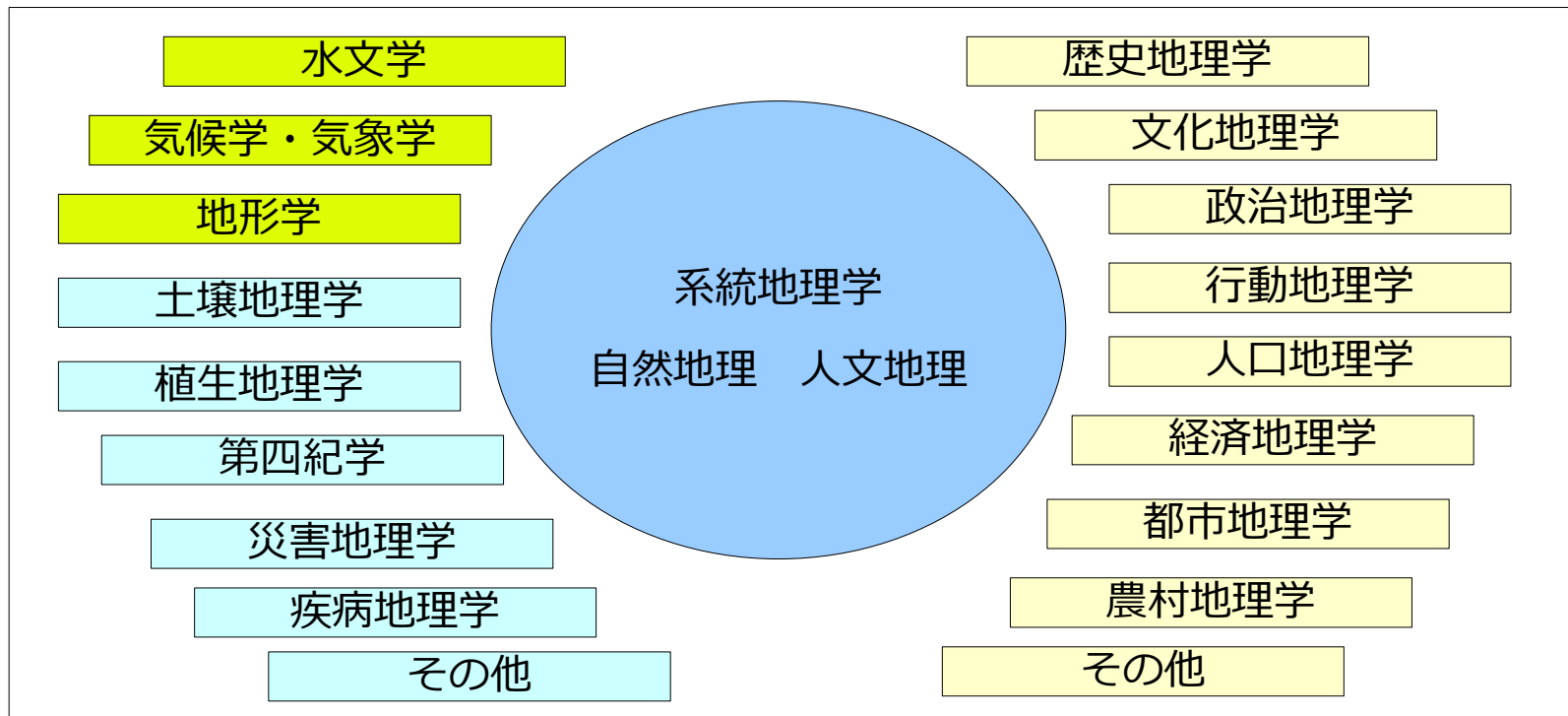
地理学の 카테고리

①系統地理学、②地誌学、③地図学、④地理学史

・地誌学（地域研究）は地域の個性を扱う。その成果を集めて、比較、メタ解析（より上位の観点から検討）することによって世界のありさまを理解することができる。

・その時の道具が系統地理学（細分化された知識）と地図学

・地図学は地理情報システム（GIS）を含み、地理総合でも重要な課題となっている。



系統地理学の諸分野（まだたくさんの細分された分野がある）

教科書の記述

・自然地理学：人間の存在の有無にかかわらず地球上で起こる現象をおもな対象とする分野

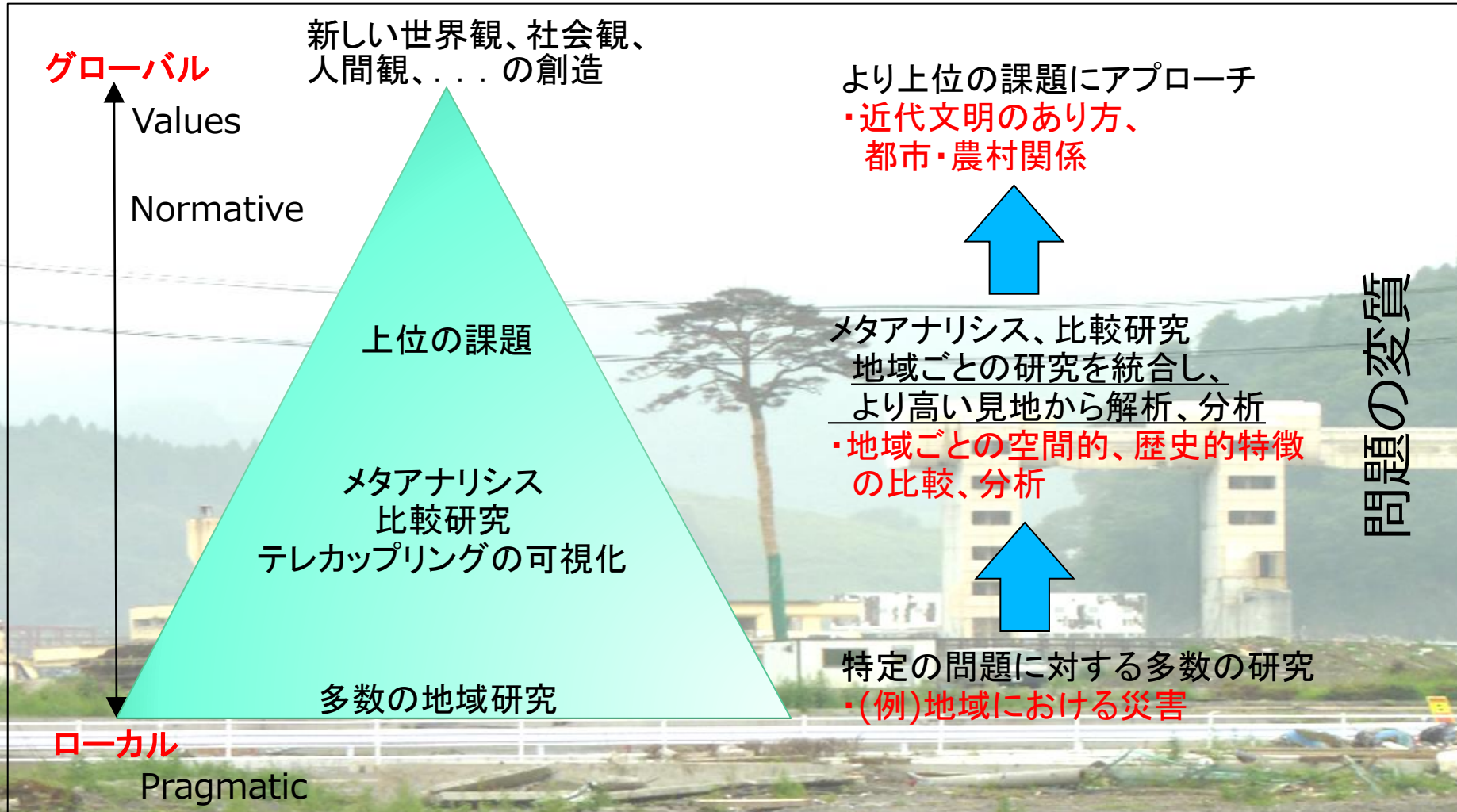
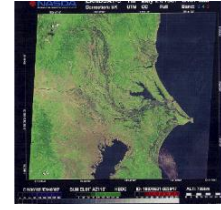
・人文地理学：人間がいることで起こる現象を主な対象とする分野

実際には自然、人文を包括的に捉えなければ世界のありさまはわからない。

⇒これが地理学の目標。

地理学のこころ： ローカルとグローバル、個別性と普遍性の関係

- ・ ローカルに真実あり！ ⇔ それって事例研究でしょ
- ・ 地域における小さな研究を統合し、グローバルへ
- ・ 地域の経験を集めて、メタ解析し、より上位の課題へ
- ・ 現実に対峙する問題解決型科学から地球温暖化問題へ



現代社会の課題 「環境」、「災害」

自然と人の関係性のなかから立ち現れるもの

ひと、自然、社会の関係性 といいかえてもよい。

ひと：顔が見え、名前があり、暮らしがある人間

人：数字と属性で表され、科学の言葉で記述できる人間

社会：ひとが集まって暮らしを営む領域

ひとと社会の有り様の違いについて考えてみよう！

地理学の重要性は？



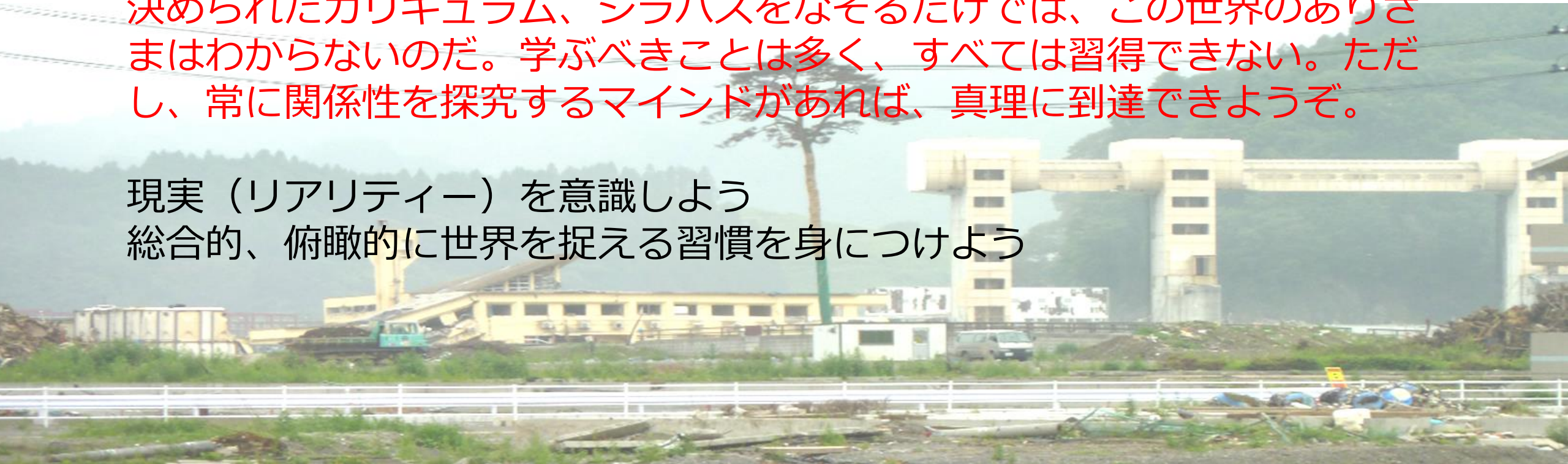
3 高等学校までの地理と大学の地理学

高校の地理 学習指導要領が決まっている
受け身の地理学（ただし、地理総合では双方向性を重視）

大学の地理 教員の考え方によって内容が変わる
受け身の地理学から、現実に即して考える地理学へ

決められたカリキュラム、シラバスをなぞるだけでは、この世界のありさまはわからないのだ。学ぶべきことは多く、すべては習得できない。ただし、常に関係性を探究するマインドがあれば、真理に到達できようぞ。

現実（リアリティー）を意識しよう
総合的、俯瞰的に世界を捉える習慣を身につけよう



4 総合科学としての地理学

- 20世紀頃まで 細分化により科学が発展
⇒背景には経済成長 地理学が力を持ち得なかった理由は？
- 21世紀以降は 総合的、俯瞰的に事象を捉える必要があるのでは
⇒背景には低成長から成熟に向かわなければならない社会

【考えてみよう】 オルタナティブ・サイエンスへの道

- ・ 総合的、包括的アプローチ、関係性の重視
- ・ 感性を通じたリアリティーへの接近
- ・ 連帯による主体と客体の融合

(古川安、「科学の社会史」、ちくま学芸文庫)

地理学からさらに周辺科学へと進んでいくマインドをもとう！

熱帯林の破壊

生物多様性の喪失、
温室効果ガスの放出

⇒伐採を止めよう

エコな生活をしよう

地域の産業、人生、グ
ローバルサプライ
チェーン、...

⇒問題は複雑



アブラヤシ



ゴム



GeocoverTM 1990年と2000年の比較 - Microsoft Internet Explorer

スマトラ島におけるアブラヤシ農園の拡大

1990

2000

背後には
何があるか

(GeocoverTMMosaic)

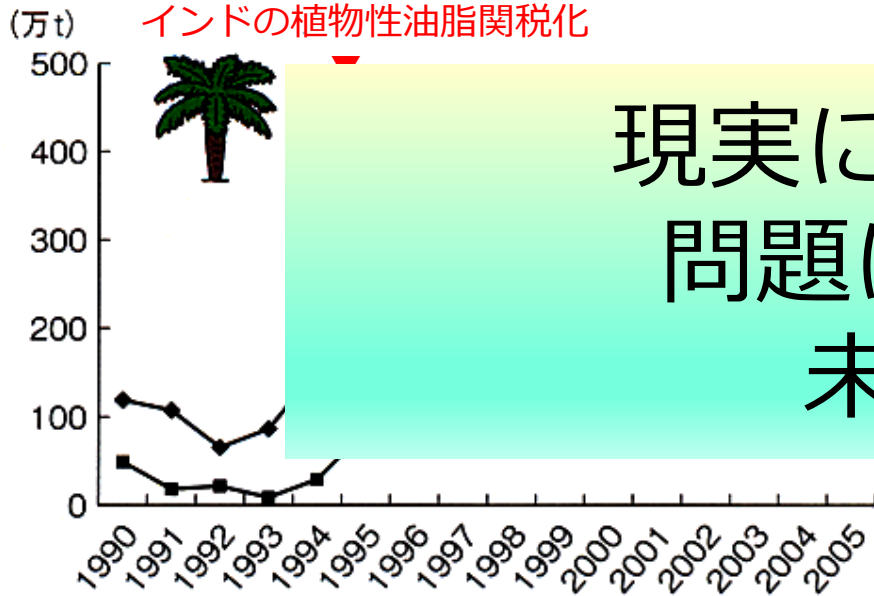
ページが表示されました

スタート | C:\Documents and Se... | kondoh.odp - StarSuit... | 3 Internet Explorer | Adobe Photoshop | Norton | 36% | インターネット | 12:01

テレカップリング

距離を超えた社会経済的および環境的な相互作用

図3 中国とインドのヤシ油輸入量



出所：FAO（国連食糧農業機関）STATより作図

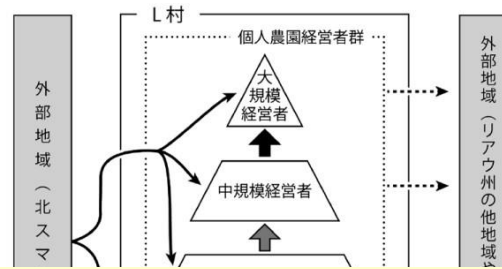
本文中出所

- 1) FAO. (2006). Global Forest Resources Assessment 2005. FAO Forestry Paper 147. Food and Agricultural Organization. Rome.
- 2) FAOSTAT. <http://faostat.fao.org/site/291/default.aspx>

(現代農業、2008年12月号、関論文より)

人生

小さな豊かさをめざすことは、基本的人権である



90年代のリアウ州L村では、土地なし労働者が個人農園経営に参入し、その経営規模を拡大させることで大規模経営者となる社会階層へと昇格して行っていた。

ネシア・リアウ州にシ個人農園経営を通地理評、

現実に真摯に向き合い、
問題に対峙しながら、
未来を展望する

エクト



熱帯泥炭地域社会再生に向けた国際的研究ハブの構築と未来可能性への地域将来像の提案(PL:甲山治、2014-2021)
地域の人びとと協力しながら、パルディカルチュア（再湿地化した泥炭地における農林業）を実践し、乾燥・荒廃化した泥炭地の湿地化と回復をめざす。

地球温暖化問題の達成をめざす、
遠回りの道

5 地理学史からみた人文地理学の現在 地理学史を知ろう

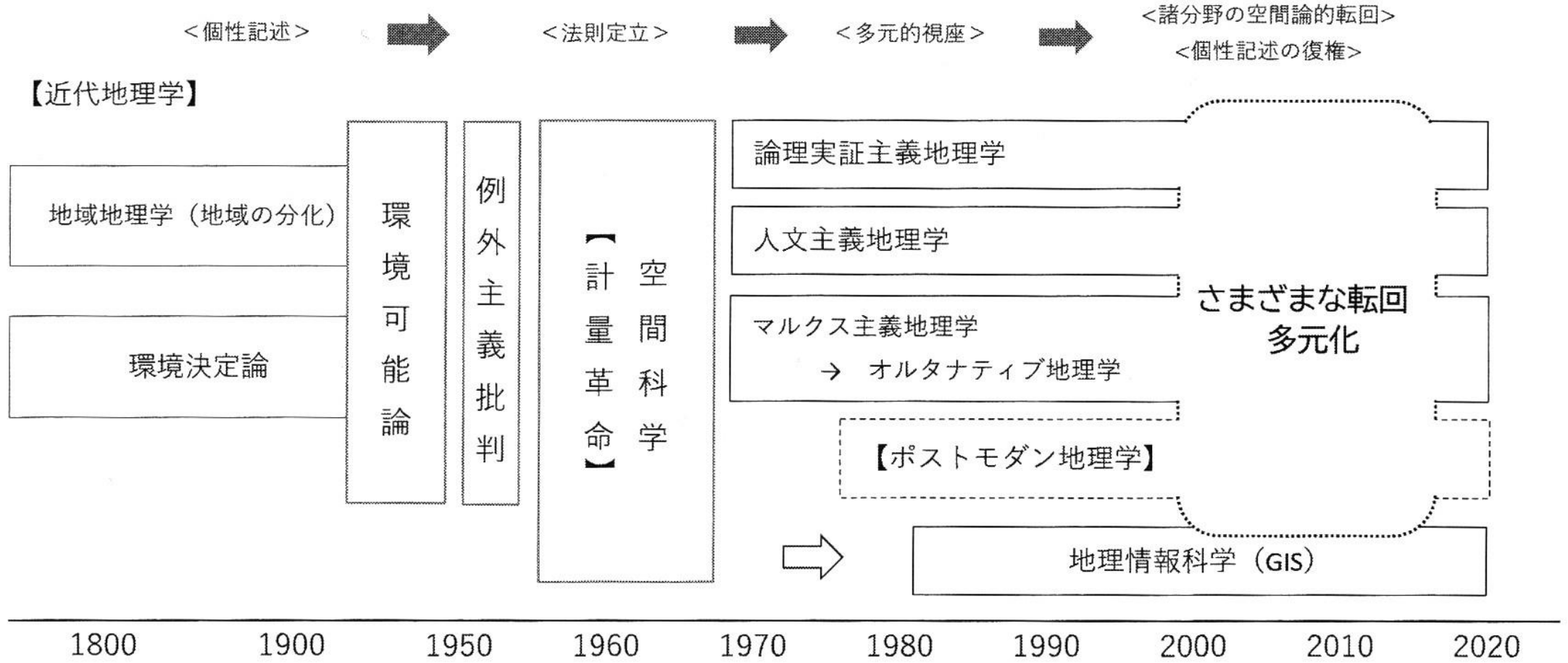


図 1-2 人文地理学の潮流 (松尾 2015, Chris Philo 2008, をもとに作成)

普遍性の探究と関係性の探究の間、背景にある思想、新たな手法の開発、歴史、世界観の変化

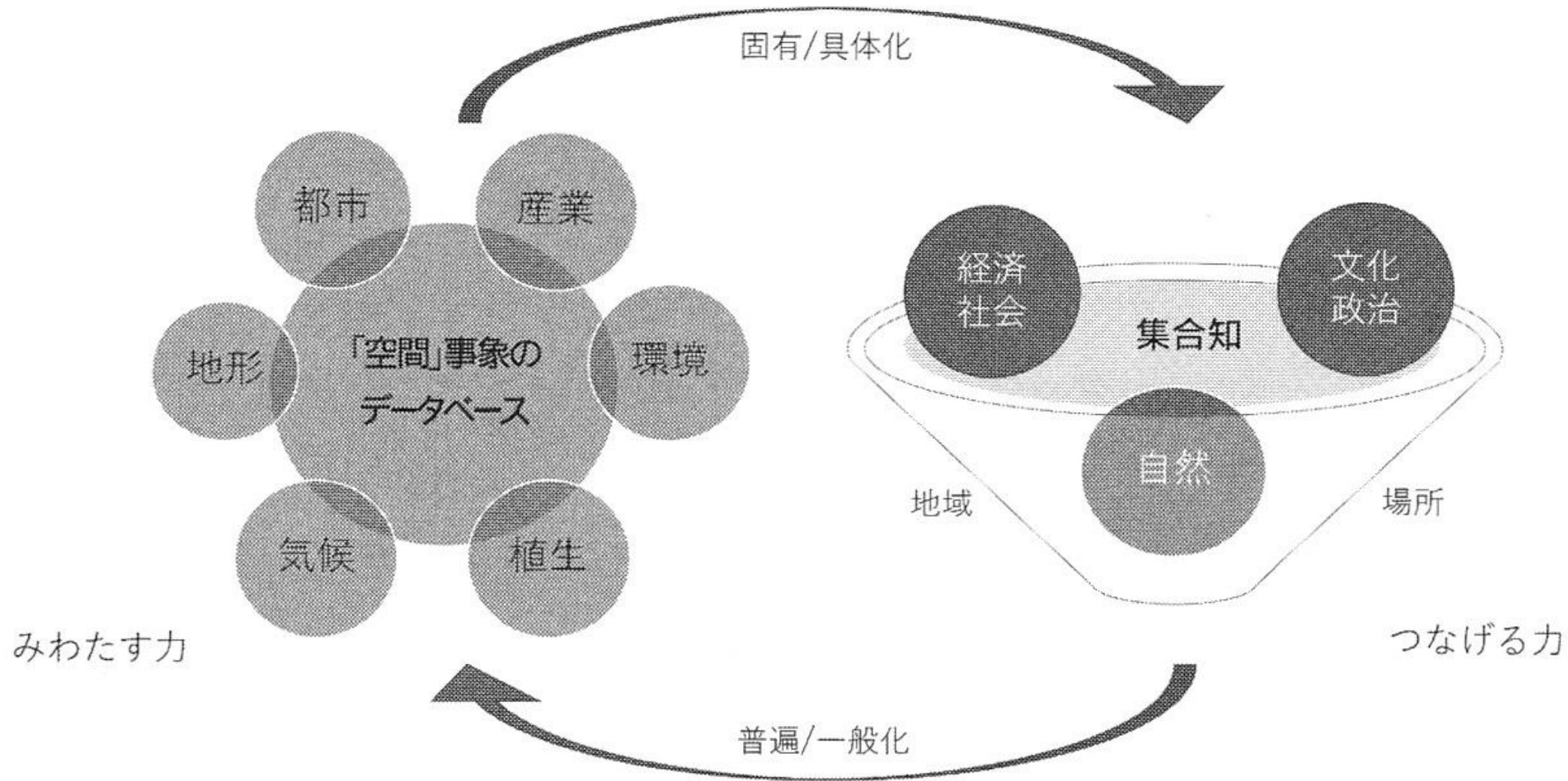


図 1-3 系統地理学の「みわたす力」、地誌学の「つなげる力」

展開(turn) 文化論的展開、空間論的転回 認識は変遷する

6 各章の概要

関係性を探究する力

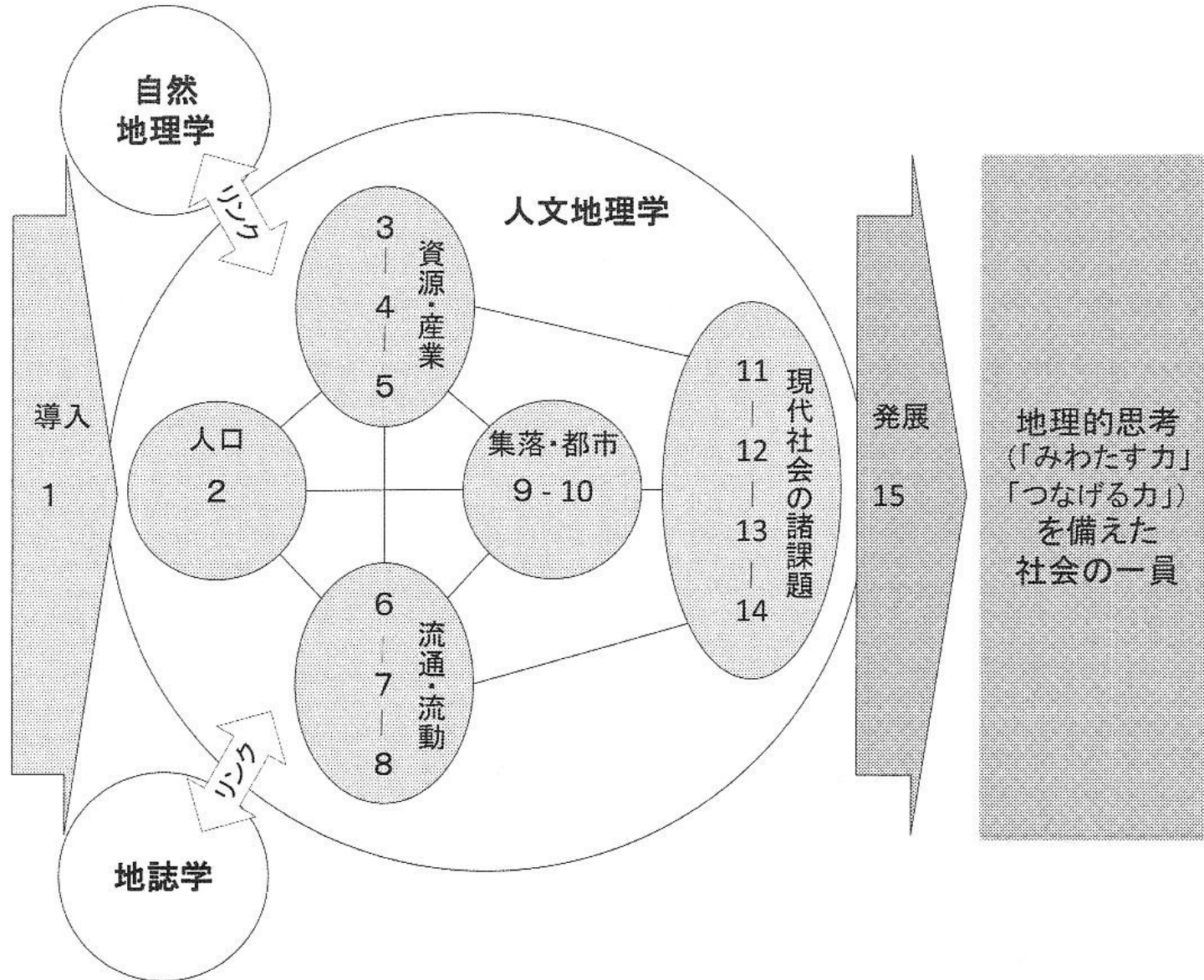


図 1-4 本書の構成

コラム：高大「不」連携の「あるある」 (高等学校の地理から大学の地理学への悩み)

高校の地理学は（形式上）体系化ができている(学習指導要領)
⇒受け身の授業

大学の次は社会だ！ この世界の有り様をどう理解？問題をどう解決？
⇒総合的、俯瞰的、歴史的に地域と“ひと”を観る

●地域を主体に考えよう！ 地域が集まって、世界になる
⇒地球的地域主義（グローカリズム）



問題の解決とは何か？

- ・現代の科学は問題と解決を認識した方が良い⇔基礎科学
- ・地理学は問題解決型科学になりえる
- ・“ひと”を中心に置く地理学でありたい

○“人”は規範的な人で、数字と属性で表され、科学の言葉で記述することができる

○“ひと”には名前があり、顔が見え、暮らしがある

総合的とは？どんな事情が？ 沈む珊瑚礁の島嶼国

a. モルジブの首都、マレ島

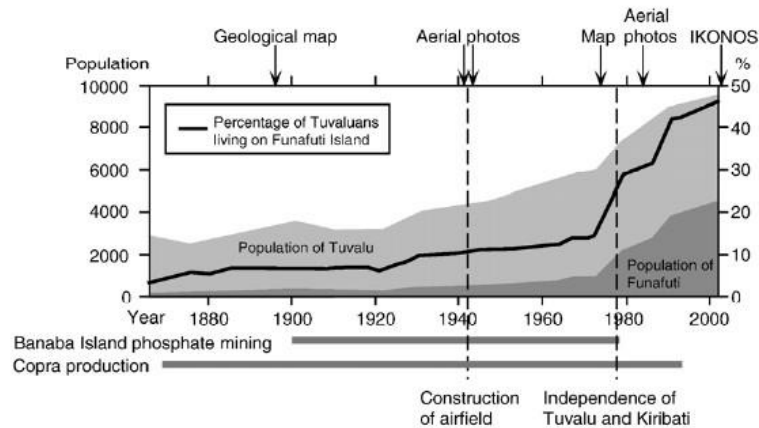


真の問題は何か

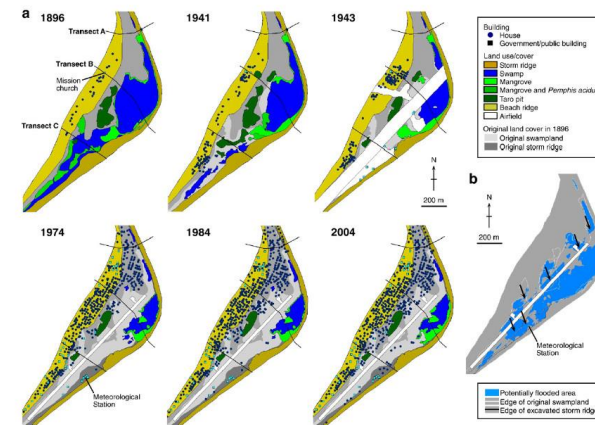
○サンゴ礁を壊しつつ、海外からの観光収入、中央-地方問題 モルジブ、マレ
○人口の増加と集中、都市化、地形改変、ゴミ、出稼ぎ、... 様々な**現在の**問題を抱えるツバル、フナフチ

現在の問題と未来の問題

b. ツバルの首都、フナフチ



人口が増え、半分がフナフチに集中し、ラグーンは埋め立てられ、住宅へ



(Yamano et al,2007)



観光地となった「沈む家」

海水面上昇に伴い、
太平洋の海拔の低い
島国に住む人々は、
すでに家から避難しなくては
ならなくなっている。

未来を重視 バックキャスト
⇒**現在が疎かにならないか？**



ふたつの視線方向を交わらせること

現在を重視 フォーキャスト
⇒**現在をよくして、未来を展望する**

地理学の世界へようこそ

